

第173号

## ほほえみの会

2011.10.9

政府は小児ガンの対策を急いでいるようだ。

小児がんの医療態勢について話し合う国の専門委員会は、「小児がんの診療体制」「患者・家族の支援 長期フォローアップ」「難治がん、研究、教育・研修について」「小児がん登録について」の内容で報告書をまとめた。

この専門委員会は、来年から始まる国の新たながん対策の基本計画を作成するため、対策が遅れている小児がんの医療態勢を話し合うもので、1月から8月に開かれた委員会には医師や患者家族などの専門委員ら10人が参加した。小児がんは、子どもが亡くなる病気で最も多いにもかかわらず、全国各地の医療機関で治療レベルに大きな差があると指摘され、治療成績の向上が求められている。これについて委員からは「治療成績の具体的な目標を掲げて専門的な治療が行える態勢を作るべきだ」という意見や「厳しい治療によって生じる障害などを長期間にわたって診療できる態勢が必要だ」といった指摘が相次いだ。そして、専門委員会は「患者を集めて専門的な治療を行う小児がんの拠点病院を整備すべきだ」などの意見をまとめ来年度予算に小児ガン対策として6.6億円を要求することを決めた。

こうした国の動きは小児がん患者にとっては嬉しいことである。が、一方で福島原発事故で多発するであろう小児がん対策だという意見もある。それならば、なぜ始めから避難範囲を広げて、避難させなかったのか。最悪の事態を想定すれば、もっと広い範囲で避難させることはできたはずである。福島では子どもたちの甲状腺の検査が始まった。被害者が出ないことを祈っている

<194回 8/14ほほえみの会>  
3名の参加でした。

▽小学1年、男の子。神経芽腫再発。入学式、5月運動会も元気に過ごしたが、6月に入り目が飛び出してきて見えなくなった。調べると再発で全身に転移をしており、特に視神経に腫瘍が大きくなっていることがわかった。化学療法を開始した。薬は効いている様子だが、骨髄抑制でベットに TENT 張り。プレイルームにもいけず、ベットの中だけでしか動けないのでストレスが溜まる。今後、完治を目指すか、軽い治療を続けるか、それとも治療をやめてこのまま過ごすか。と言われる。完治を目指すには骨髄移植だが、姉か母親の骨髄が使えれば使いたい。ただ、前回の手術で腎臓をひとつ摘出しており、治療に耐えられるか心配。また、院内学級きららに転校をしたが、元の学級から友達の手紙が届く。学校の楽しい話や水泳の話でとても本人に見せられない。どう対応していいか悩む。

<195回 9/11ほほえみの会>  
4名の参加でした。

「小児ガンと診断されたときに親が見るビデオ」の最終プレビューをして内容チェックをしました。DVDは10月末に完成する予定です。

<196回 10/9ほほえみの会>  
3名の参加でした。

▽3歳女の子、急性リンパ性白血病。発熱があり掛かりつけの医院で診てもらったらずぐに血液検査をして市民病院を紹介してくれた。そこで骨髄検査をしてこども病院へ。前日まで元気だったので驚いた。骨髄に異常はあったがまだ血液には現われていなかった。早い時期に病気が分かってよかった。2人の姉がいるが、小学1年の下の子がすぐ泣いたりして困らせる。夫の両親が面倒を見てくれるので助かる。

次回 は11月13日(日) 11時からです  
ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560  
E-mail アドレス k\_likeda@yahoo.co.jp  
ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>